

# 第3回 DTM 講座

## ～コード理論～

ソフトメディア研究会

### 1. コード理論を学ぶ前に

コード理論は作曲の上で必ず理解しなければいけないものではありません。  
ただこれを知っていると作曲の助けになるので覚えておいて損はないと思います。

#### 1.1 ーコード (和音)

音を2つ以上重ねて鳴らした時にできる音の響きのことを指します。

音楽やバンドでよく耳にす不協和音とかパワーコードとかいうのもコードの一部になります。

コードの名前には「C」とか「G」などの米名がよく使われています。



#### 1.2 ールート (基音)

そのコード(スケール)において基準となる音を指します

#### 1.3 ーインターバル (音程)

(スケールでやったことと一緒です。)

コードを考える上でルートからある音までどのくらい離れているのかを「度」という単位を使って表します。

基準となるルートを1度として、そこから2度3度… と数えていきます。

基本的にはプラスの値に数えていき、マイナスの値はあまり数えません。

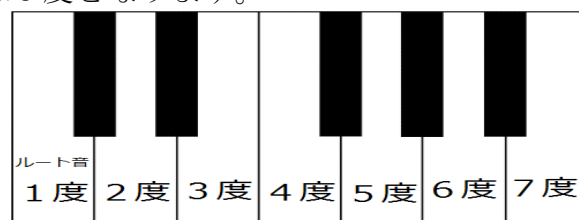
「0度」というのはありません。

例)

Cをルートとした時、

Dは2度、Eは3度… Bは7度となります。

さらに1オクターブ上のDは9度となります。



## 2. コードの基礎

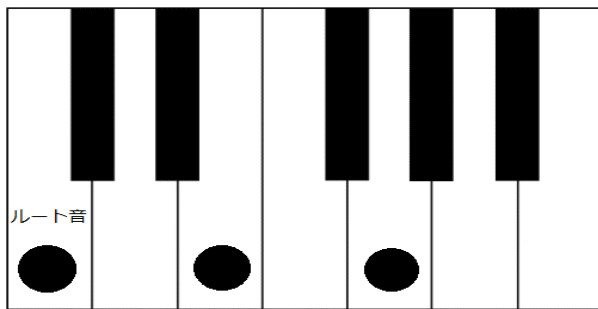
CメジャーコードやEマイナーコードのように、音程の名前+コードの種類でコードは呼びます。

コードはルートに対して1度3度5度の和音が基礎になります。

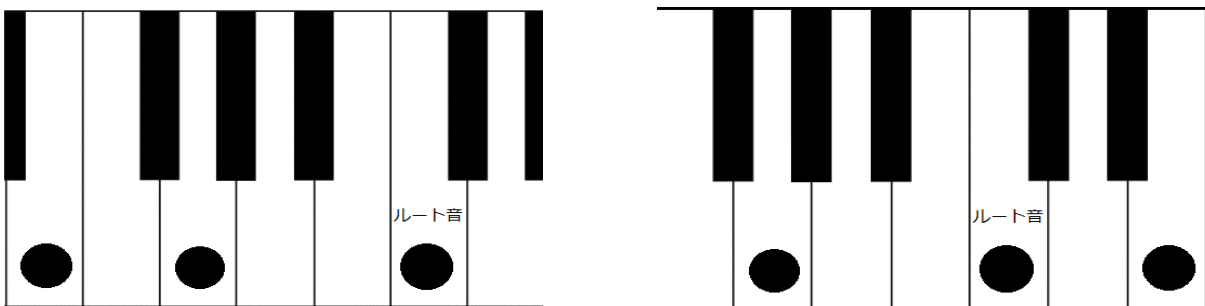
例としてルートをCで考えてみます。

- 1度はルートとなるのでCとなります。
- 3度はルートから鍵盤4つ隣となるのでEとなります。
- 5度はルートから鍵盤7つ隣となるのでGとなります。

よって、CのコードはC・E・G（この音のことを**構成音**と呼びます）となります。



構成音が同じならばコードは同じになります。



そして、このコードを**転回形**と呼びます。  
右図のようにEとGが1オクターブ下になるものは**第一転回形**  
左図のようにGが1オクターブ下になるものは**第二転回形**と呼びます。

転回形を使うことでコードからコードに移った時にあまり音が跳び過ぎないようにするのに使用したりします。

### 3. コードの種類

ひとまず覚えておかななくてはならないのは、

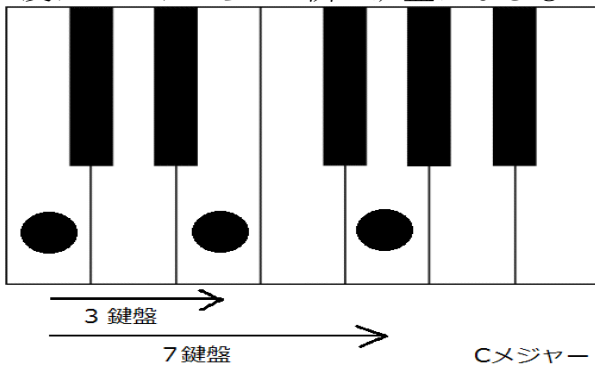
- ・メジャーコード
- ・マイナーコード

この二つになります。

1度3度5度の構成音でコードを弾いた時に

3度はルートから4つ隣の鍵盤、

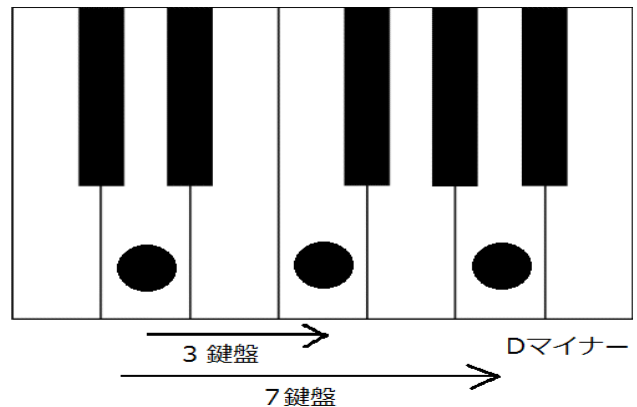
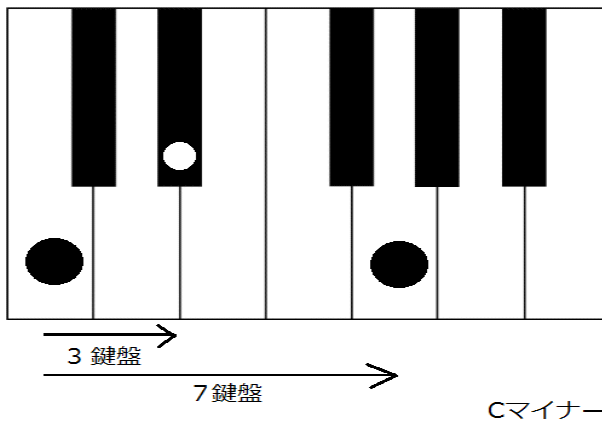
5度はルートから7つ隣の鍵盤になるものをメジャーコード



メジャーコードに対して、

3度はルートから3つ隣の鍵盤、

5度はルートから7つ隣の鍵盤になるものをマイナーコード



と呼んでいます。

結果的に3度に当たる音が半音変わります。

メジャーコードに対してマイナーコードの3度は半音下がります。

見てわかるとおりメジャーでもマイナーでも5度の音はルートに対して7つ隣になります。

感覚の話をする

メジャーコードは雰囲気明るく、マイナーコードは暗くなります。

このことから、3度の音はそのコードの性質を決めているようなものと言えます。 3/5

## 参考資料1. トライアドコード

今、説明した3音で構成されるコードのことを**トライアドコード**（三和音）と呼びます。

度数の数え方は上で解説したものでは説明しきれていない部分があります。

それは「半音」が含まれた時の数え方です。

ルートから7つ隣にくる5度・4度のことを「**完全音程**」と呼び、完全〇度という風に呼びます。

（ルートとオクターブ違いの8度も完全音程に入ります）

そして、これ以外の音程（2度・3度・6度・7度）には「**長**」と「**短**」をつけます。

ルートからの距離で長が付くか、短が付くかが決まります。

メジャーコードに使われている3度はルートから数えて4つ隣になるので「**長3度**」  
マイナーコードに使われている3度はルートから数えて3つ隣になるので「**短3度**」  
といいます。

短は度数に対して半音下がることになります。

ちなみに完全音程から半音上がったたり下がったりする場合は「**増**」「**減**」をつけます。

コードにはまだまだ種類があり、色々な性質を持ったものがあります。

下に記したのはコードの一例です。

コード名	表記	使う音				備考
メジャー	C	1度	長3度	5度		
マイナー	Cm	1度	短3度	5度		
セブンス	C7	1度	長3度	5度	短7度	メジャーに短7度を足した音
メジャーセブンス	CM7	1度	長3度	5度	長7度	メジャーに長7度を足した音
マイナーセブンス	Cm7	1度	短3度	5度	短7度	マイナーに短7度を足した音
サスフォー	Csus4	1度	4度	5度		3度の代わりに4度を使った音
アドナインス	Cadd9	1度	長3度	5度	長2度	メジャーに長9度を足した音
オーギュメント	Caug	1度	長3度	増5度		メジャーの5度を半音あげた音
ディミニッシュ	Cdim	1度	短3度	減5度		短3度ずつ重ねた音
パワー	C5	1度		5度		3度を使わない音

メジャーセブンスはCΔ7、CMaj7と表記されることもあります。

これ以外にもまだまだたくさんのコードがあります。

## 参考資料2. 不協和音

この講座の冒頭に例として出した「**不協和音**」についてですが、世間一般で広まっている不協和音と定義的な不協和音とではおそらくズレがあります。

定義的な「不協和音」とは

1度4度5度8度の完全協和音と長短3度6度の不完全協和音があり、コードの中で2つの構成音を取り出し度数がこの完全協和音か不完全協和音に当てはまらないものを「不協和音」と呼ばれます。

そして、これは時代によって定義が変わっていきます。

## 参考資料3. パワーコード

ギターでよく出てくる**パワーコード**ですが

このコードは1度と5度の音のみを鳴らすことでできます。

コードの性質を表していた3度の音が失くなったことでメジャーほど明るくないがマイナーほど暗くないといった（雰囲気）中間的な音になり、とても扱いやすい音になります。